

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

また、本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

赤崎 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・言語についての知識・理解・技能は、基礎ができています。 ・読む力を問う問題に課題がある。読むことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える問題は、正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・目的や意図に応じて、自分の考えを書く問題に課題がある。
	よくできた問題	・登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する。
	努力が必要な問題	・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える問題は、正答率が低く、無解答率は、高かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・小数の足し算や引き算など、基本的な計算問題の誤答が少なくなってきた。基礎的・基本的な力が身に付いてきた。 ・角の大きさを求める問題など、図形領域に苦手意識を持っている児童が多いことがわかった。
	よくできた問題	・除数が整数である場合の分数の除法の計算をする問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択する問題は、正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・活用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・理由を記述する問題(自分の考えをわかりやすく書く)に抵抗を感じている児童が多い。
	よくできた問題	・切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する問題は、正答率が低かった。

理科	全体的な傾向や特徴など	・観察、実験の技能が身に付いていないことと、その結果を理解できていないことがわかった。確実に習得できるようにしていかなければならない。
	よくできた問題	・メダカの雌雄を見分ける方法を理解しているかを確認する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・顕微鏡の適切な操作方法を身に付けているかを確認する問題は、正答率が低かった。

⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると答えた児童が年々増えてきた。全校で、子ども主体の授業に取り組んできた努力の成果が少しずつ出てきている。
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる児童が増えてきた。今後も、授業で話し合う活動を多く取り入れていく。
- ・算数科は、基礎的・基本的な力が身に付いてきた。全校で、学力向上に取り組んできた成果が表れてきた。
- ・書くことと読み取る問題に抵抗感をもっている児童が多い。書くことに関しては、無解答率が低くなってきた。今後、図書室の利用を増やすなど、読むことを更に習慣化していくようにする。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・休日に勉強する時間が1時間以内の児童の割合は変化が見られず、課題である。休日においても、2時間以上勉強することができるよう、家庭に啓発していく必要がある。
・普段、学校図書室や地域の図書館を利用している児童の割合が低かったため、1日あたり1時間以上読書をする児童の割合も低かった。宿題で、読書を増やす等、本に親しむ児童が増えるようにしていかなければならない。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

・学校に行くことを喜んだり、学校の出来事について話をしたりする児童が、年々増えてきている。
・2時間以上テレビを見たり、ゲームをしたりする児童の割合が年々増える傾向にある。家庭学習に時間を充て、テレビ・ゲームをする時間を減らしていかなければならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上に関する職員会議の定期的な実施
 - ・全職員で学力状況調査・CRTの問題を解く。
 - ・本校の課題について全職員で分析する。
 - ・学力向上のための取組の確認・振り返りを行う。
- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習の時間に「赤崎タイム」を設定する。(月、火曜日は、漢字スキル・書く活動。水、木曜日は、計算スキル・算数プリント。金曜日は、読書とする。)
 - ・各学年、算数科は単元別プリントを少人数指導教員及び小中連携サポーターが準備をする。また、印刷室に設置しているプリント棚を活用する。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・冬休み、春休みに宿題とし、答え合わせ、やり直しなどを行う。
 - ・アシストシートは、朝自習や宿題で活用する。
 - ・5年生については、学力状況調査に関する過去問題を春休みから4月の学力状況調査の間まで、朝自習の時間を活用して取り組ませる。
- 「書くこと」を習慣化
 - ・どの教科も自分の考えを書くことを習慣づけたり、学習の終わりに必ず感想を書かせたりするなど、書く活動を位置付ける。
- ひまわり学習塾との連携
 - ・職員が学習塾の様子を見に行き、教師と指導員が課題を共有する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 赤崎小学校「家庭学習スタンダード」を作成し、取り組んでいく。
 - ・月末に「家庭学習チャレンジハンドブック」を回収し、担任ががんばりを認め、課題について助言するようにする。
 - ・夏休み、冬休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用する。
 - ・学年の実態に応じ、家庭学習時間の設定及び「家庭学習のすすめ」を作成し、実施する。
- 全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知
 - ・学校だよりや学校ホームページで知らせる。
- 小中で学力に関する研修会を実施し、中学校区における課題を把握する。